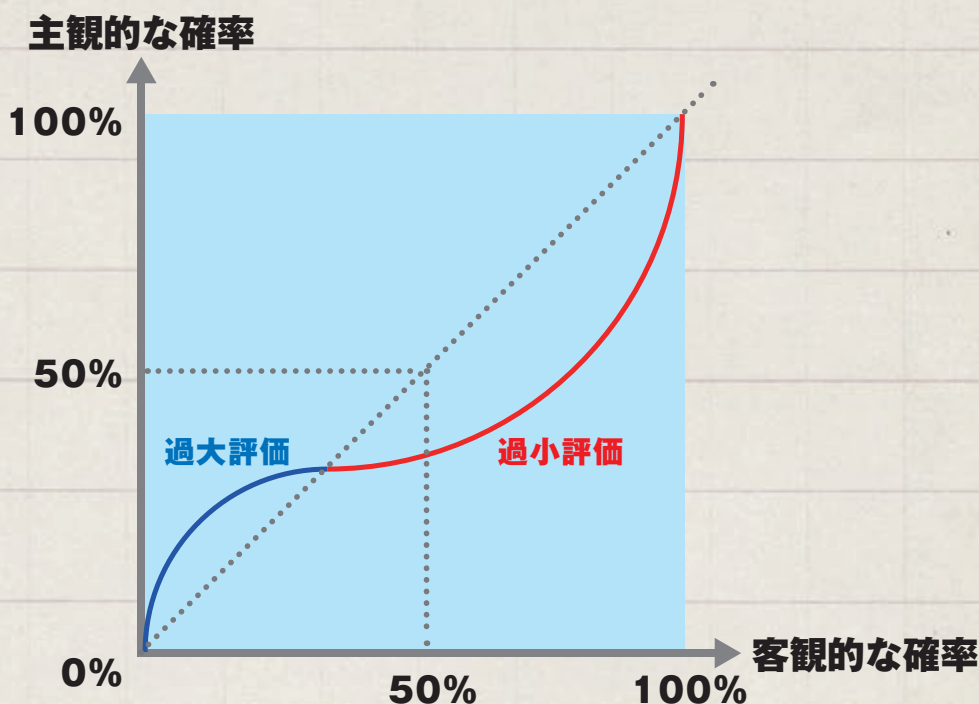


プロスペクト理論と
穴党バイアス

令和の「梁山泊」が爆誕！
舟券攻略に命を燃やす者たちの熱き戦

穴党はオッズを正しく見れていない？



夢を見て、期待値を捨てている？

今回は少し話題を変えて、ポートレースにおいて穴党の陥りやすい罠について論じていく。

ポートレースにおいて、高配当を狙って三連単を買うことはごく一般的な光景だ。特に6-1-1-5や5-1-3-1-6といったいわゆる「超大穴」の組み合わせは、的中すればウン十万円という払い戻しが期待できることもあり、レース前の予想段階でつい惹かれてしまう。しかし、こうした大穴の舟券が実際に当たる確率は冷静に考えれば、ほとんど当たらないはずの買い目だ。にもかかわらず、私たちはその「当たりそうにない買い目」に対して、不思議と「いけるかもしれない」「意外と来るのではないか」といった期待を抱いて買ってしまう。この心理の裏には、行動経済学の代表的な理論のひとつである「プロスペクト理論」がある。

簡単に言えば、人は低い確率を実際よりも高く見積もる傾向があるとされており、たとえば1%を、場合によっては5%程度に感じてしまう。これによって、本来なら「買うべきでない」ような買い目にも、多くの人が資金を投じてしまう構造が生まれてしまうのである。

穴党バイアスという心理的ひずみ

このような心理バイアスの存在は、競馬市場を対象とした実証的な研究によっても明らかにされている。たとえば、加納悟・島田達巳（2012）によるJRA三連単市場の分析では、09年の全レース約940万件の投票データをもとに、各買い目の中確率と実際の得票率の比率、すなわち「人気度（得票率 ÷ 客観確率）」を指標として、穴党バイアスの度合いが測定された。その結果、的中確率が低くなるほど人気度は急激に上昇し、特に的中率が0.1%未満の超大穴においては人気度が適正値よりも5倍以上に達する事例も多く確認された。つまり、ほとんど当たらない出目が、理屈を超えて「買われすぎていく」のである。この傾向は「微小確率の過大評価」という名のもとに、プロスペクト理論が予測する通りの心理パターンと一致している。ポートレースにおいても同様のメカニズムが働いているとすれば、的中率と回収率が見合っていない舟券が市場全体に溢れている可能性がある。夢を見ることを否定するわけではない。だが、その夢がどれほど薄い確率に支えられているのかを見極め、自らの認知にひそむバイアスと向き合うことは、回収率を下支える第一歩となるはずだ。